

平成 20 年 12 月 17 日
在デトロイト日本国総領事館

日本車及びアジア系へのバックラッシュ（報道）

16 日付デトロイトニュース紙は「ビッグ 3 批判の中で、バックラッシュ（反発）が呼び覚まされている」と題して報道しています。日本車等への破壊行為が起り、外国自動車メーカー及びアジア系への痛烈な批判がなされている中で、1982 年に日本人と間違われて中国人労働者が撲殺された当時の状況（ビンセント・チン事件）の再現が懸念されています。「目立つ行動はしない」、「運転中はドアロックする」、「駐車する場合はビル出入口の近く等人目の多い場所を選ぶ」ようにして、注意して行動してください。

報道内容の概略

1. ワシントン及び米国内における 1 ヶ月間に及ぶデトロイト・バッシングの後で、デトロイト圏の人々の間では、自動車の選択といった生活様式への攻撃などによる嫌がらせといったバックラッシュが発生している。市民団体である American Citizens for Justice の共同設立人であるヘレン・ジアは「70 年代末から 80 年代はじめの悪夢が再び起こることを恐れている」と述べた。多くの者は現在の状況は、80 年代と 90 年代に労組の駐車場においてトヨタやホンダなどの車がハンマーで破壊された当時とは状況が異なるとみているが、一方ではアジア系に対する嫌悪が再燃することを恐れている。

2. 12 日にはウッドヘイブン市（デトロイト市から南に車で 20 分程度）にあるフォードの工場の近くにあるショッピングモールの駐車場において、ホンダ、現代、マツダ、トヨタ、フォルクスワーゲンの 5 台の車のタイヤがパンクさせられ、「米国のものを買え（Buy USA）」との落書きが車に書かれていた。防犯カメラには中年の白人男性が映っていた。

3. 1982 年に日本人と間違われて中国人労働者が撲殺された後に設立された American Citizens for Justice のワン事務局長は不満がエスカレートすることを心配し、「外国車に対して嫌がらせをした者の不満は、次の段階で外国人に対する不満に発展する。」と述べた。

4. 自動車メーカーを退職したジョー・バビアーズは外国メーカーを批判している。「自国のために正しいことはアメリカのものを買うことだということを、十分な人々が理解していない。私の父やその兄弟、従兄弟は、我々の今の生活のためにドイツや日本と戦ったのだ。自分は、彼らが勝ち取ったものを、自動車産業を通じて全て失うことはしたくない。」と述べた。バビアーズは最近、アラバマ州選出のシェルビー連邦上院議員の議論に対する抵抗として、ボイコット・アラバマというホームページを開設した。バビアーズは多くの米国自動車産業の労働者は外国メーカー、さらにアジア系アメリカ人に対する彼の不満を共有するであろうと信じている。

以上